


私立大学研究ブランディング事業

2019年度の進捗状況

学校法人番号	341008	学校法人名	安田学園		
大学名	安田女子大学				
事業名	小学校での英語教育を実質化する教員養成・研修システムの研究開発と展開				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	4440人
参画組織	文学部(英語英米文学科)、教育学部(児童教育学科)、心理学部(心理学科)、家政学部(造形デザイン学科)、教職センター				
事業概要	<p>本事業では小学校英語の教科化を見据え、初等中等教育の教職学生と現職小中学校教員が共に本学と海外で研修を行い、量的・質的方法でその効果を検証することにより、学生の「教員養成モデル」と教員の「教員研修モデル」を開発する。これにより実践的な教員養成・研修への具体的な示唆を得ることができ、「教員養成の安田」としてのブランドを一層強固にし、広島の教員養成ならびに地域の教育活性化に貢献する私立大学を目指す。</p>				
①事業目的	<p>本事業は、2020年度からの小学校での英語の教科化を見据え、本学の児童教育学科と英語英米文学科の教員養成における協働モデルの開発、ならびに現職小学校教員の教員研修における協働モデルを開発するものである。また、本学と海外での英語研修と指導法研修の効果を量的・質的手法により客観的に検証するものである。</p> <p>I 研究ステージ(2016年度～2019年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学児童教育学科と英語英米文学科ならびに現職小学校教員との本学での協働での学習の開始 ・ 研究対象グループを本学の海外提携校に派遣 ・ 協働での学習ならびに海外研修の効果の測定 <p>II 開発ステージ(2019年度～2020年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語力・指導力向上を最大にする「教員養成モデル」ならびに「教員研修モデル」の提示 				
②2019年度の実施目標及び実施計画	<ul style="list-style-type: none"> ■第2次・事前研修の実施 ■第2次・海外研修の実施 ■第2次・事後研修の実施 ■第2次研修のデータ分析 ■第1次・第2次研修の総合的分析 				
③2019年度の事業成果	<p>■第2次・事前研修の実施、第2次・海外研修の実施、第2次・事後研修の実施</p> <p>・第2次研修(事前・海外・事後)を以下の日程で実施。</p> <p>対面研修① : 2019年3月16日(土) 8:50～16:10 会場/安田女子大学 対面研修② : 2019年4月20日(土) 8:50～16:10 会場/安田女子大学 対面研修③ : 2019年5月18日(土) 8:50～16:10 会場/安田女子大学 対面研修④ : 2019年6月22日(土) 8:50～16:10 会場/安田女子大学 対面研修⑤ : 2019年7月20日(土) 8:50～16:10 会場/安田女子大学 海外研修 : 2019年8月7日(水)～8月24日(土) カリフォルニア大学 デイヴィス校 対面研修⑥ : 2019年9月7日(土) 8:50～12:10 会場/安田女子大学 研修成果発表:2020年2月15日(土) 9:00～16:00 会場/安田女子大学</p> <p>・対面での事前研修の内容は、「発音」「教室英語」「英語の文字指導」「学習指導要領のポイント」「ICTの活用」「模擬授業」などを行った。また、毎回1時間程度、本事業で購入した「没入型画像投影システム」を活用した「VSR(Virtual Study Room)」において、海外研修先であるカリフォルニア大学デイヴィス校とリアルタイムに繋ぎ(Skypeの双方向通信を利用)、英語によるオリエンテーションを実施した。</p> <p>・対面研修に加えて、「オンライン英会話」「オンデマンドサービス(WEB上での動画配信)の視聴」「ポートフォリオ(学習記録及び活動記録の蓄積)」「リサーチ・プロジェクト」などの課題を課し、各自でも学習を行うようにした。</p>				
					
	<p>・海外研修の内容は、提携先のカリフォルニア大学デイヴィス校と綿密な打ち合わせをし、事前研修との繋がりができるように内容を検討した。具体的内容は「Listening, Speaking, Pronunciation, Grammar, & Vocabulary Integrated Skills」「Reading, Vocabulary, Writing, & Grammar Integrated Skills」「Research Project Plan & Portfolio Workshop」「Intercultural Communication Skills Seminar」「ポスター発表」などを行った。</p>				

<p>③2019年度の事業成果</p>	<p>・研究成果発表では、各自の研究・プロジェクトのテーマにより、「個人による口頭発表」「グループによる口頭発表」を行った。また、広島大学大学院教育学研究科の築道明教授による講演会「小学校での英語の学びを中学へどうつなぐか？－中学生の英語学習のつまずきから－」を実施した。研究成果発表及び講演会は、本研修の受講者以外にも告知をし、県内外の小中学校の教員及び学生が参加した。</p> <p>■第2次研修のデータ分析 ・研修効果の測定として、「アンケート調査(心理調査)」と「GTEC受検(英語能力調査)」を各4回実施。また、研修内容の評価などについてのアンケート調査を3回実施した。</p> <p>■第1次・第2次研修の総合的分析 ・第1次研修のデータ及び第2次研修のデータをもとに研修の総合的分析を進めている。</p>
<p>④2019年度の自己点検・評価及び外部評価の結果</p>	<p>(自己点検・評価) ブランディング事業専門委員会を中心に、研修の内容や効果の測定方法について打合せを重ね実施してきた。第2次研修の内容は、第1次研修の反省点でもあった「小学校教員と学生との交流・情報交換を促進させる」という点を取り入れたものとした。受講者への研修内容の評価などについてのアンケート調査の結果は、大変好評であった。学生の回答で多かった意見は、「現役の小学校教員と一緒に学ぶことでより実践的な学びに結びついた」であった。小学校教員で多かった意見は、「定期的に集合研修をすることで学習意欲を高めることができた」という回答であった。</p> <p>研修効果に関する総合的な分析はまだ中途であるが、英語力の向上を測定するGTECを用いた調査では、小学校教員と学生(海外)のいずれにおいても、研修前、留学前、留学直後、研修終了時の4時点では総合得点の変化に有意傾向がみられた。特に、スピーキングとライティングという発表技能においては有意差がみられた。ただし、日本での研修の効果も強いと考えられることから、これらの技能の向上に関しては、日本での研修の内容を工夫すれば、留学同等の効果が少なくともこれらの技能については得られるかもしれないことを示唆する。また、留学後の時間の経過に伴い、有意差は顕著には見られないものの、全般的に得点が下降傾向にある。留学の効果の維持についての今後の検討が必要である。</p> <p>本年度の実施目標である「第2次事前研修の実施」「第2次海外研修の実施」「第2次事後研修の実施」「第2次研修のデータ分析」「第1次・第2次研修の総合的分析」は、概ね達成できていると判断する。「第1次・第2次研修の総合的分析」については、引き続き実施していく。</p> <p>(外部評価) 「小学校英語教育に関する連携協力協定」を締結している広島市教育委員会と連携して研修を実施している。広島市教育委員会からは、研修成果発表からも、本研修が現職小学校教員へ与えた影響は大きいことがわかったとのコメントをいただいている。また、本研修は2019年度で終了となるが、引き続き小学校英語教育に関する連携を続けていきたいとのご意見をいただいた。</p> <p>海外提携大学であるカリフォルニア大学デイヴィス校とは定期的に電話会議をし、海外研修の内容を検討した。海外研修において、国内で行われる事前研修全5回との繋がりができるように、第1次研修では実施をしなかったSkypeでの双方向通信を利用したオリエンテーションを取り入れ、第2次研修では事前研修全5回において実施した。また、本年度の研修においては、前年度の経験を踏まえ、特に海外研修の内容については現地の担当者からのコメントを踏まえて編成を行った。</p> <p>広島市教育委員会及び海外提携大学であるカリフォルニア大学デイヴィス校からは、本研修は本事業の目的に則していると評価をいただいた。本研修は、今年度で終了するが、引き続き連携していく予定である。</p>
<p>⑤2019年度の補助金の使用状況</p>	<p>2019年度の事業経費使用の主な目的は、第2次研修に係わる費用及び第2次研修受講者に対する効果の測定に係わる費用である。主な使用状況は、研究費としてテキスト及び参考図書購入、旅費交通費、GTEC受検費である。</p>